

南アルプス周辺の山村における雑穀栽培

川上 香
(江戸東京博物館)

Millet cultivation at mountain villages around south Japanese Alps

Kaori KAWAKAMI, Edo-Tokyo Museum

本稿は、南アルプス周辺の長野県飯田市旧上村、南信濃村の遠山と、静岡県静岡市葵区井川、山梨県南巨摩郡早川町の3地域における雑穀栽培を聞き取り調査し、その栽培継承の要因を考察したものである。

これら3地域で各15名程度のインフォーマントからの聞き取りと、栽培地の観察から得られた調査結果については、①雑穀栽培状況観察記録により、3地域の栽培の状況と、各栽培品種の特徴を各地域ごとにまとめた。②雑穀栽培と食に見る伝統的な智慧の聞き取りにより、昭和30年代頃まで継承されていた焼畑耕作による雑穀栽培方法と、収穫・貯蔵・精白・種子の更新および雑穀の調理法についてまとめた。③伝承された智慧と現代の雑穀栽培環境の聞き取りと観察により、雑穀栽培の現況や種子の入手更新方法、精白等加工の条件、雑穀を利用した

贈答と接待、神事への供用の現況をまとめた。

この調査結果から、雑穀栽培が継承されている要因には、①伝統的の智慧の継承による要因、②栽培継承を支える環境要因、③栽培継続の動機要因の3要因があることがわかった。第1要因は焼畑耕作などの経験から培った栽培方法、種子の更新方法などで、第2要因は第1要因を継承しつつ、山村の立地や、地域そのものが栽培を継承しており、種子の入手や精白加工などが行える条件があること、第3要因は雑穀の旨さや尊さを継承して、雑穀を調理し、自ら食べ、贈答や接待にも利用したいという動機によるものだった。

これらの要因が様ざまに結びつき、栽培継承が行われている。また、地域ごとに残る在来品種の特性の違いから、歴史や文化などを反映した継承要因を明らかにすることができた。

図1. 雑穀栽培敬称の要因

